国際ロータリー第2530地区　創立 1951.1.1　承認 1951.3.23　登録番号 7734

福島ロータリークラブ会報

vol. 19
2017.12.14 thu

Rotary　ロータリー：変化をもたらす

2017-18 RI 会長　イアン H.S. ライズリー

http://www.f-rotary.com/
【事務所】福島市栄町5-1 ホテル辰巳屋 7F 【例会日】木曜日12：30
【TEL】024-524-1010 【FAX】024-524-1011
【mail】f-rotary@guitar.ocn.ne.jp　info@f-rotary.com

TODAY'S PROGRAM

新会員スピーチ

日本銀行福島支店　支店長　菅野　浩之 会員

会長あいさつ

2017-18年度会長　森岡 幸江

只今、鈴木会員へ花束を贈呈させていただきました。去る10月、フランス政府より「国家功労勲章シュヴァリエ」に叙されました。

鈴木会員は、長年にわたり東京のNHK報道局国際部で政治、経済の時事問題を取材し、1991-1994年までパリ特派員、2011-2015年までヨーロッパ総局長を歴任されております。今後スピーチを頂く機会を設けます。

12月も半ばを過ぎ、寒さも本格的になり、イルミネーションの明かりが一層美しく見え、クリスマスモードも盛り上がってきました。

クリスマスといえばケーキがつきものですが、以前当ホテルが所属している日本ホテル協会東北支部では、クリスマスケーキのコンテストを開催しました。東北6県より選りすぐりのクリスマスケーキが出品され、審査員はデパートのバイヤーさん、野菜ソムリエの資格をもった食にこだわっている主婦の方、そしてホテルの経営者でした。

結果はといいますと、3者が選んだケーキは全く別なものでした。味はどれも素晴らしいものでしたので、あとは3者のこだわり、つまり主婦の方はホールで食べるケーキなので飽きないものといい、バイヤーさんは見た目のインパクトといい、ホテル側は量産できて持ち運びの途中で崩れないもの。物事の観点が違うと結果も変わってくるのですね。皆様は今年のクリスマスどんなケーキを召上りますか。

さて、来週は年忘れ家族例会です。親睦委員の皆様には、趣向を凝らした内容で大変お世話になります。二胡奏者チェンミンさんの演奏もございますので、ご家族の皆様はじめ奮ってご参加ください。

例会次第

開会点鐘　森岡幸江 会長

ロータリーソング

「我等の生業」

ソングリーダー　茂田士郎 会員

お客様並びに来訪ロータリアン紹介

フランス政府
「国家功労勲章」受賞のお祝い

NHK福島放送局局長　鈴木　仁 会員

会長あいさつ　森岡幸江 会長

食事

幹事報告　相良元章 幹事

各委員会報告

●IT戦略・雑誌小委員会

＊「友」12月号紹介　菅野晴隆 小委員長

●プログラム・ニコニコBOX小委員会

ニコニコBOX担当　丹羽和也 委員

◎本日のプログラム

閉会点鐘　森岡幸江 会長

例会変更のお知らせ

●当クラブ次週21日（木）の例会は、18時半より辰巳屋にて年忘れ家族例会になっております。ご出欠のご返答をお忘れの方はお知らせ下さい。

その他のお知らせ

●12月のロータリーレートは1ドル112円です。

●次年度理事の皆さんは、本日、次年度の副幹事、副SAAを選任する会合を行いますので例会後お残りくださいますようお願い致します。

新入会員スピーチ

日本銀行福島支店
支店長
菅野　浩之 会員

皆様、こんにちは。日本銀行福島支店の菅野でございます。

本日、新会員スピーチをするようにとのお達しでございますので、口下手な私には大変つらい任務になりますが、精一杯、頑張らせて頂きます。暫くの間、お付き合いをお願いいたします。

まず始めに、この伝統と格式のある福島ロータリークラブに入会をお認め下さいましたことに、心より御礼申し上げます。6月15日が入会式でしたので、ちょうど半年が経過しました。ロータリーに参加するのは初めてで、未だに分からないことが多いのですが、引き続き、宜しくご指導を賜りたくお願い申し上げます。

本日は、何をお話したら良いのか、ずっと悩んでおりましたが、金融政策とか、経済情勢の話はいろいろなところで皆様に聞いて頂ける機会があろうかと思います。昨日も、全力を込めて、福島商工会議所さんでお話をさせて頂きました。ですので、月並みですが、ざっくばらんな自己紹介として、これまでの経歴などをお話しさせて頂きます。皆様にとって、それのどこが面白いのか、という気持ちも正直拭えませんが、私も、来月でちょうど50歳になりますので、あたかも半生を振り返るような神妙な心持ちでチャレンジしたいと思います。

私が生まれましたのは、昭和43年、1968年1月の仙台であります。仙台には3歳頃までおりました。既に亡くなった父親は、ここ福島市の渡利中山という山の中で生まれ育ち、今も伯父が本家を守っています。母親は仙台市出身で、働きに出ていた父親と仙台で結ばれ、3歳年上の兄と私が生まれました。私の家内も、実は福島市の生まれ育ちですので、小さいときは、じいちゃん、ばあちゃんち、結婚してからは、家内の実家にほぼ毎年来ておりました。ですから、福島は半分以上、私の故郷と感じており、今回、福島勤務となって初めて福島に住めることを大変嬉しく思っています。

因みに、私の3人の子供も、全員、里帰り出産で、福島日赤病院で生まれましたので、子供たちも、福島には特別な思いを持ってくれているようです。

育ったのは、栃木県の田沼町というところで、現在は合併により佐野市となっています。佐野市は栃木県の南西部、関東平野のへりにあり、その沢を分け入ったような場所が旧田沼町で、ここは、何の特徴もない町です。さらにその奥には旧葛生町があり、こちらは、葛生原人ですとか、石灰石がとれる町として、地元では有名です。

この佐野という育ちの地についても、当地とのゆかりを感じています。1つは、この佐野市と旧田沼町を跨いで唐沢山という山があり、ここには、かつて上杉謙信の10度にわたる攻撃を撃退した、関東一の山城があります。この城を築いたのが、940年の平将門の乱を平定した、藤原秀郷、別名・俵藤太（たわらのとうた）です。この俵藤太には、各地に百足退治の武勇伝が残っておりまして、その1つに、飯坂穴原で大百足を退治し、その際に湧き出た温泉が現在の鯖湖湯であるという伝説が伝わっています。

佐野と福島のゆかりのもう1つは、福島に多い佐藤さんという姓です。佐藤さんは、本をただせば、佐野にいる藤原氏――つまり、藤原秀郷が祖ということになりますが――、この佐野の藤原から、佐藤に転じたと言われているようです。何やら因縁めいた趣がして参ります。

さて、佐野の話が長くなりましたが、ともかく、私はその佐野で育ち、佐野高校という田舎の男子高を出て、昭和61年に東北大学法学部に入学しました。

入学にあたっては、経済学部に入った高校の同級生とふたりで、お互いに買ったばかりの原付スクーターに乗って、栃木県の南西端から仙台まで走っていきました。だいたい300キロ、10時間ほどかかったでしょうか。大学入学というハイテンションなタイミングでなければおよそ思い付きもしなかったであろう暴挙だったと、今となっては思います。途中、国道旧4号線の郡山の入り口に今でもある「竜宮城」という中華レストランで食べたランチの美味さを、今でも忘れることができません。

東北大学でやったことと言えば、2つあります。
実は私は子供のとき、高熱から慢性中耳炎を患い、両側

の鼓膜が破れてしまいました。今でも若干そうなのですが、聴力が少し弱く、親や学校の先生には「よくそれで授業についてこれたな」と言われたこともありました。そんな訳で、大学１年の夏休みに、両耳の手術を受けたというのが、１つ目です。ただ、この手術は名医と言われた東北大の助教授に執刀して頂いたのですが、若干不具合が出て、大学３年に両側とも再手術を受けました。

２つ目は、何を隠そう司法試験の勉強です。法学部出身の方はお分かりかと思いますが、当時は短答式試験、論文試験、口述試験という３つの段階に分かれていまして、私は、この短答式試験に３回合格しています。特に１回目は、全国で７名いた20歳での最年少合格でした。もっとも、これは自慢のように聞こえたかもしれませんが、実は全然自慢にならない話でありまして、裏返して言えば、その次の段階の論文試験に３回も落ちたということです。もちろん最終的に合格できなかった訳です。もし受かっていれば、ひょっとしたら、今頃、渡辺健寿法律事務所さんでお世話になっていたかもしれません。

もう１つ付け加えますと、この試験のために私は１年留年しました。それにもかかわらず、合格できなかったのは、実は、私の嫁が関係しています。理由は２つあります。

１つは、人のせいにするつもりではないのですが、大学４年の夏に、嫁と交際を始めたことです。交際にうつつを抜かした訳ではないものの、彼女は大学を普通に４年で卒業しましたので、他の同級生とともに、卒業前にあれこれと遊ぶ誘いに抗しきれず、本来全力で準備すべきであった大学５年での受験に失敗してしまいました。

そして２つ目は、彼女の１つ上のゼミの先輩が日銀に入っていて、その繋がりで、大学５年の夏、その年の論文試験の１週間前に、日銀の面接試験に呼ばれて、結局、なんとなく面接に合格してしまったという経緯であります。今から考えれば、就職活動の準備は一切しておらず、日銀のことも殆ど知らなかったので、よくぞ受かったなという気がします。いろいろ悩みましたが、「司法試験はいつでも受けられるけど、日銀に入るチャンスはこの１度しかないなぁ」と思ったというのが、私が日銀に入った唯一の動機です。

結局、これまでに日銀を退職することなく、この歳になってしまいましたので、追い出されるまで在職しそうな感じです。照れずに申し上げれば、まあ、日銀の仕事に遣り甲斐を感じているのだと思います。本当に微力ですが、自分の持ち場で、なにがしか日本のため、地域のためにお役に立てるよう、自分なりに精一杯、誠意をもって頑張っていきたいと思っています。

日銀には、平成３年、1991年に入行し、現在26年目です。

一番長く経験したのは、主に金融政策に関する企画を行う企画局という部署で、都合３回、累計７年ほど在籍しました。金融政策と言っても、金利を上げる、下げるといった政策判断そのものに関わる分野ではなく、そういう金利の上げ下げを、具体的にどのような枠組みのもとで、どのような手段を用いて実現するかという観点で金融政策のツールを企画し、これを構築していく仕事が中心です。日銀自身のリスク管理やバランスシートのあり方を考えることも職責でした。

この分野で最後に携わったのが、2013年４月の「黒田バズーカ」と言われた量的・質的金融緩和の導入です。課長の立場で、黒田総裁の鮮烈なデビュー戦に関わりました。「異次元の金融緩和を行う」という新総裁の考え方のもと、隣の課の課長が、何十兆円の国債を買うべきかを検討し、私がその何十兆円もの国債を本当に買えるのか、買うとしたらどのように買うのかといった点を検討しました。金融政策は、事前に漏れるといけませんので、殆ど部下を使わずに自ら手を動かして、人知れず、コソコソと検討し、局長、担当理事、正副総裁に検討結果を報告・提案するという、孤独で厳しい仕事です。

その後は、日銀の銀行実務を担う業務局という部署の総務課長に異動し、１年間のニューヨークのコロンビア大学へのシニア留学を経て、この５月末に、福島に参りました。

業務局では、日銀ネットという、全国の金融機関を結んで、１日に百数十兆円もの資金の受払いが行われる巨大なシステムの全面更改など、３つの大きなプロジェクトが並行して走っていたことから、結局、３年２か月もの長い間、総務課長職を務めることになりました。

その間、2016年１月に決定されたマイナス金利政策についても、これを実務的に実現し、執行する立場から、深く関与しました。マイナス金利と言っても、日銀にある金融機関の預金の全額にマイナス金利を付けるのではなく、大半が＋0.1％、一部は0％、そしてごく一部に▲0.1％を適用するという仕組みで、しかも、それぞれの残高は日々変わっていきますので、実際の利息計算は大変複雑で煩瑣なものとなります。笑い話のようですが、日銀の実務部隊は、これをその辺にあるパソコンで処理しています。そうした実務体制を短期間で構築し、間違いなく実務を回していくというのは、日本ならではの

「現場力」です。こんなすごいことをやっている中央銀行は世界中どこを探しても絶対にありません。

日銀生活で一番の思い出は、新人時代に２年間在籍した青森支店です。因みに、支店の経験は、青森のほか、その直後に京大の大学院に国内留学させてもらった関係で４か月ほど滞在した京都支店と、震災のあった夏から10か月ほど勤務した大阪支店とがあります。いずれも短い期間でしたが、支店経験の数としては、比較的多い方かと思います。

青森支店では、プライベートでも楽しい日々でしたし、仕事面では、青森県の景気動向を調べるため、県内中を駆け巡りました。多いと１日に８社、長いときには２泊３日と１泊２日の出張で、１週間全く支店に出勤しない週もありました。たぶん同期でもこれほど企業訪問させて頂いたのは私だけだったと自負しています。このような無我夢中さを認めて下さったのか、企業の皆様には本当に可愛がって頂きました。経済のことはもちろん、地域の事情も碌に理解していない若造相手に、嫌な顔ひとつせず、丁寧に、いろいろな話を教えて下さいました。

今でも忘れられないのは、八戸市にある住友系の八戸セメントという会社の業務部長さんです。この方は――偶然ですが、佐藤さんというお名前でしたけれども――、実は、さきほど述べた旧葛生町のご出身で、お父様が葛生にあった住友セメントに勤められていた、２代続きの住友セメントマンでした。佐野高校の先輩でもあった佐藤さんには、ひときわ親切にして頂き、「忙しいけど、朝の７時なら話せるよ」とおっしゃったのを間に受けて、図々しくも、青森市から５時に出発してお邪魔したこともありました。

この方に私の転勤の挨拶に伺った時に掛けられた言葉は生涯忘れることはないと思います。それは、「君の辞令がいつか新聞に出るのを楽しみに待ってるよ」というお言葉でした。当時、自分にはそのような発想がありませんでしたし、ましてや自分がそのような身分になるとは全く想像できませんでしたが、それでも、私はこの励ましの言葉を胸に、この20数年間をめげずに頑張ってこれたのではないかと考えることがあります。

最後に、現在の日銀福島支店長としての日常を簡単にご紹介したいと思います。

日銀の支店として一番大切な仕事は、クリーンなお札を管内に隈なく供給することです。また、金融機関同士や国と企業・家計との間の資金の受払いを１円の間違いもなく、確実に実行することも重要です。これには、年金の支払いや税金の受け入れなども含まれますので、正に国民生活に直結する仕事であると言えます。

毎日、多額のお金を出したり、戻したりするため、私も支店長として、朝夕に、金庫の開け閉めを行っています。扉の厚さは１メートルはあろうかと思います。金庫には大変な金額のお金を保管しておりますが、金庫の中に充満するお札の匂いには、いつも厳粛な気持ちにさせられます。クリーンなお札は清々しくいい匂いがいたします。

因みに、金庫まではお見せできませんが、一般向けに支店の見学ツアーを無料で行っていますので、ご興味がございましたら、是非、支店までお問い合わせ下さい。

こうした銀行としての業務が日銀支店の根源的な仕事と言えますが、これに加え、企業や取引先金融機関の皆様のご協力を得て、管内の経済金融情勢を把握する仕事もしています。私自身の時間の７～８割はこれに充てていることになるでしょうか。その成果は月に１回取り纏めて、記者会見を含めた対外公表を行い、自治体や企業の皆様など、広く世の中の人々の参考に供しています。もちろん日銀本部にも報告し、金融政策の判断材料の一つとなっています。短観の公表は四半期に１度です。講演も、ご要請があればどこにでも出向きます。時には、地区の公民館で、おじいちゃん、おばぁちゃんを相手に、お話をさせて頂くこともございます。

景気調査なるものは、具体的には、さきほどの青森支店での話と同様、県内各地の企業経営者を訪ねて、最近の業況を教えて頂いたり、様々な会合に参加し、関係者と意見交換を重ねることなどを通じて行っています。夜の会合も少なくありませんので、この半年で６キロも太ってしまいました。福島県はうまい酒と肴が多過ぎです。それはさておき、現在の福島県経済は、復興需要が高水準ながらも一服してきた一方、昔から県内景気のけん引役となっていた製造業がやや勢いを欠いているため、踊り場に入りつつあるように思われます。今後、景気動向の調査には一層念を入れていきたいと考えています。

ところで、皆様とお話しておりますと、「誰それという支店長とは随分仲良くした」といったことを良くお伺いします。そういう時は皆さん、とても楽しそうな表情を浮かべられます。かなり昔の支店長であったりもするのですが、そうしたお話を伺うと、福島支店の支店長は、長い間、地元の皆様に親切にして頂いてきたということを実感します。私も、「半分以上故郷」の福島の経済と社

会に少しでもお役に立てるよう、微力を振り絞っていくことで、結果的に、歴代支店長と同様、記憶に残る支店長になれれば、と密かに願っています。

皆様方におかれましては、今後とも、ロータリーの内外で宜しくご教導を賜りますとともに、総勢50名が一致団結して取り組んでおります日本銀行福島支店の業務に何卒ご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げまして、私の拙い新会員スピーチとさせて頂きます。

ご清聴有り難うございました。

■「ロータリーの友」12月号のご紹介

IT戦略・雑誌小委員会

菅野　晴隆 小委員長

【注目記事】

●横組みP14～P17　特集　疾病予防と治療月間

ポリオ撲滅チャリティーバザーとして行われた、福島南RCの「スーパー・スカイアグリ 2017（リンゴ祭り）」が紹介されています。

【注目記事】

●横組みP7～P13

特集　続けることで、見えてくること

時代や地域のニーズの変化を感じ取りながら工夫を重ねてきた、クラブの社会奉仕活動の事例が紹介されています。

【注目記事】

●縦組みP4～P8

SPEECH　人はがんとどう向き合うのか？

がんの臨床医、研究者としてキャリアを積まれてきた垣添忠生氏（日本対がん協会会長）。自らが、がん患者の遺族でもあり、国のがん対策に関わってきた者として、がん患者が以前と同じような生活を、気負いなく営める社会の実現こそ、成熟した社会のあるべき姿ですと述べています。

私のひとこと

霸丸　直久 会員

干支と相場

今年も残りわずかになりましたが、日経平均株価は約25年11か月ぶりの高値水準にあります。来年は戌年ですが、干支の相場の格言として、「辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌は笑い、亥固まる、子は繁栄、丑つまずき、寅千里を走り、卯跳ねる」が一般的に知られています。

過去を振り返ると、1950年から2016年までの戌年の日経平均株価の勝敗は4勝1敗、平均騰落率は9.8%となっています。

はたして来年も株価は上昇して笑えるか？

お祝い

●フランス政府「国家功労勲章」受賞のお祝い（花束贈呈）

NHK福島放送局局長

鈴木　仁 会員

例会プログラムのご案内

12月21日（木）		18：30～　辰巳屋
年忘れ家族会		
12月28日（木）	理事会承認休会	
1月4日（木）		12：30～　辰巳屋
市内クラブ新年合同例会		

ニコニコBOX報告

本日のニコニコBOX投入額　28件　¥56,000　累計 ¥1,156,000　〈報告〉　丹羽　和也 委員

森岡 幸江 会長

鈴木会員の「国家功労勲章」受賞おめでとうございます。菅野浩之会員のスピーチ楽しみにしております。

相良 元章 幹事

NHK鈴木局長のフランス政府「国家功労勲章」受賞を心からお祝い申し上げます。来年、スピーチの時間をご用意させて頂きますので、ぜひゆっくりお話をお聞かせ下さい。

鈴木 仁 会員

誕生日を祝っていただき、ありがとうございます。頂いたソースやドレッシング、早速使わせて頂いております。とても美味しいです。

小林 仁一 会員

本日、市内でも雪が積もりましたが、弊社コバックスで施工しました新大原病院北側の、地熱利用のゼロエネルギー融雪装置により、全く雪が積もっていませんでした。ホッとしました。

後藤 洋伸 会員

16日、娘のマーチング全国大会応援で、さいたまスーパーアリーナに行ってきます。金賞をとれると良いな。結果が楽しみです。

幡 研一 会員

菅野浩之会員のスピーチ楽しみです。

内池 浩 会員

寒中お見舞い申し上げます。

他クラブ会員より　菅野晴隆／安斎圭一／反後太郎／丹治正博／八子英器／茂田士郎／佐藤康太郎／児玉健夫／白岩康夫／船本 勝／高倉裕行／安藤錬雄／森 洋一／佐藤 徹／霸丸直久／佐藤英典／菅沼 裕／坪井大雄／田沼紀美子／安藤健次郎／丹羽和也